

良寛の里美術館特別展連携 良寛関連ブックリスト②ー貞心尼関連ー

★『貞心と千代と蓮月』 相馬御風／著 春秋社 1930

令和4年は長岡出身の貞心尼の没後150年に当たります（明治5年2月11日逝去）。相馬御風の数々の著作で、良寛の名前は全国的に知られるようになりました。御風は、貞心尼についての著作も残しており、本書では「良寛和尚の晩年は貞心尼によって稀有な美しさと、一段の光輝とを添えられ、良寛和尚の没後その歌と詩とは貞心尼を得て初めて今日にまでかくも豊富に伝へらるることが出来た」とし、「良寛和尚の光輝の失はれざる限り、貞心尼も亦永遠にその輝きを共にするであろうことは疑わぬ」と記しています。

★『良寛の愛弟子貞心尼と福島之歌碑』

俵谷由助／著 長岡童話研究会 1967

昭和32年、福島町に貞心尼歌碑が長岡童話研究会と貞心尼思慕会の連名で建立されました。歌碑は「朝げたくほどは夜のまにふきよする おち葉や風のなさけなるらむ」と刻まれています。貞心尼は28歳から44歳まで、この地にあった閻魔堂に住んでいました（平成7年に復元）。



▲閻魔堂と大ケヤキ（福島町）

★『近世越後の学芸研究』 第1巻 帆刈喜久男／著 高志書院 2002

「貞心尼の生涯と和歌」を所収。著者は『和島村史』などの編さんにもかかわっています。本書では、近世封建社会に生きた女性という視点からその生涯と和歌について考察を試みています。歌人貞心尼の実像はどのようなものであったのでしょうか。

★『良寛と貞心尼』新装版 加藤僖一／著 考古堂書店 2017

良寛との交流をうたった「蓮の露」の全文を掲載。写真中心の編集となっており、二人のやりとりを貞心尼の美しい手紙文字で、読むことができます。良寛は貞心尼との出会いで、最晩年に歴史的傑作を生み出したといわれています。

ここで紹介した本は、長岡市立中央図書館で借りられます（一部館内閲覧のみ）。ぜひ、ご活用ください。

このほかにも図書館には1,500点を超える良寛（貞心尼関連も含む）に関わる資料があります。

どうぞ、ご利用ください。



良寛の里美術館特別展連携 良寛関連ブックリスト②ー貞心尼関連ー

一部初版でなく、貸出可能な新装版、復刻版を掲載しています（紙面の関係で、雑誌類や自治体史などは割愛しました）。★は表面で紹介している本です。

書名	著・編者	出版社・発行	出版年	備考
華嚴の愛 貞心尼と良寛の真実	本間明／著	良寛堂刊行会	2021	
良寛と貞心尼の歌物語 純真で清らかな心の交流	柏崎地域観光推進協議会／企画・作成	新潟県柏崎地域振興局企画振興部	2018	
まちが紡ぐ良寛と貞心尼の物語		和島観光協会	2017	
良寛と貞心尼 新装版	加藤信一／著	考古堂書店	2017	★
良寛と貞心尼の恋歌	新井満／自由訳	考古堂書店	2011	
長岡藩士の娘 貞心尼 柏崎市立図書館所蔵「中村藤八による智譲尼より聞取書」	小川幸代／著	平成20年全国良寛会長岡大会実行委員会	2008	
魚沼の貞心尼と良寛さま	魚沼良寛会／著	全国良寛会魚沼大会実行委員会	2007	
近世越後の学芸研究 第1巻	帆刈喜久男／著	高志書院	2002	★
まんが 良寛を慕う貞心尼ものがたり 新装版	高橋郁丸／作	考古堂書店	2000	
貞心尼の歌碑		長岡良寛の会	1995	
貞心尼考	中村昭三／編	中村昭三	1995	
蓮の露 貞心尼筆 [復刻]	貞心尼／著 中村昭三／編	株式会社考古堂書店	1992	
良寛の歌と貞心尼 「はちすの露」新訳	伊藤宏見／著	新人物往来社	1990	
貞心尼周辺展		長岡郷土史料館	1986	
貞心尼展	柏崎市立図書館／編	柏崎図書館後援会	1981	
良寛の愛弟子貞心尼と福島の歌碑	俵谷由助／著	長岡童話研究会	1967	★
良寛と貞心 貞心尼全集	相馬御風／著	六芸社	1938	
貞心と千代と蓮月	相馬御風／著	春秋社	1930	★

コラム 松岡譲と良寛、貞心尼

詩人でフランス文学者の堀口大學と作家の松岡譲（夏目漱石の長女の筆子と結婚。『法城を護る人々』がベストセラーになった）は、長岡中学校（明治37年～42年）の同級生でした。堀口は恩師の西郡久吾（良寛研究の先覚者）の影響もあり、良寛を敬愛していました。松岡も『良寛の愛弟子貞心尼と福島の歌碑』に、「良寛関係の碑」という文章を寄せ、「『蓮の露』の唱和は日本文学に永久に燦然と光る高い意味の相聞歌で、これは良寛あつての貞心尼であり、貞心尼ないでは有り得ない良寛坊の晩景なのである」と記しています。良寛や貞心尼に高い関心を寄せ、良寛関係の歌碑や史跡、貞心尼の墓などを訪れていました。漱石も良寛を高く評価しており、それが松岡にどのような影響を与えていたのか、興味がそそられます。



▲貞心尼歌碑（福島町）